

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	祝辞
Sub Title	
Author	陳, 思和(Chen, Sihe)
Publisher	慶應義塾中国文学会
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾中国文学会報 (Bulletin of The Keio Sinological Society). No.1 (2017.)
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12810295-20170331-003

祝 辞

尊敬する岡晴夫先生

尊敬する関根教授

ご参会の皆さん

本日は慶應義塾中国文学会創設の良き日であり、私はご盛会に参加するつもりでおりましたが、事務手続き上で予想外のことがあり、出席が叶わなくなりました。ここにおわびを申し上げるとともに、ご参会の皆様我心からの祝意を表したいと思います。

慶應義塾大学は日本における中国文学研究の先駆的地位にあり、岡晴夫先生のご指導のもとに、優秀な専門家を輩出されてきました。私の指導教授賈植芳先生は九〇年代のはじめに日本を訪問し、岡教授と楽しい交流をいたしました。賈植芳先生は貴校の中国文学研究を大変に重視されており、とりわけ関根教授の胡風研究、梅志回想録の翻訳に対して熱心な援助を惜しみませんでした。賈先生が健在でこの大会にお出でになられていれば、きっと皆様と酒を酌み交わし愉快的な歓談を交わしたに違いありません。

私自身、一九九五年に賈植芳先生の紹介で早稲田大学に訪問学者として滞在していましたが、その際に慶應義塾大学を訪問し、講演する機会を与えられました。爾来二〇数年にわたって、貴校とは密接な学术交流が続いております。あつという間に年月が流れ、私も関根教授もすでに還暦を超えてしまいました。私たちの学術の理想はまだ開き始めたばかりで、今後ますます多くの中国と日本の若き研究者に私たちの学術研究の隊列に加わってもらわねばなりません。私はこうした若いみなさんが五四以来の新文化の伝統を継承し、私たちが端緒を開いた学術の理想を追求していくことを願っております。

私は慶應義塾中国文学会が創設され、学術の発展を期する意義はまさにここにあると思います。私は今はるか後且

のキャンパスにあつて、本日のご盛会の大会会場に思いを馳せています。大会のご成功と関根教授の初代会長ご就任を心からお祝いたします。

復旦大学教授 陳 思 和